

1. 研究背景と目的

現在、学部学生を主な対象とする大学図書館による学習支援への関心が高まっている。日本の学習支援に関する文献では、アメリカの研究大学において学部学生、彼らが受けている学部教育へのサービスに機能特化してきた歴史¹⁾を持つ学部学生用図書館 (Undergraduate Library)²⁾の事例が参考例として取り上げられている。たとえば、カリフォルニア大学バークレー校の情報リテラシー担当部署である Teaching Library、南カリフォルニア大学のインフォメーション・コモنز、ワシントン大学のラーニング・コモنزなどである。学習支援を検討するうえで、学部学生・学部教育へのサービスを主体とする学部学生用図書館を検討することは、大きな示唆を与えるといえるだろう。しかし、日本では、学部学生用図書館に関する本格的な研究は行われていない。そこで、本研究では、大学図書館による学習支援の検討の一環として、アメリカの学部学生用図書館に着目し、そこで行われているサービスの調査・類型化を行い、現状をみることを試みた。

2. 方法

2.1 調査方法

現在の学部学生用図書館で行われている、学習を支援するためのサービスを調査した。なお、本研究では、学生の学習の促進・充実に資するために行われる、学生への直接的な支援、教員の教育への支援を学習支援ととらえている。

調査方法は文献調査とし、調査対象大学の図書館ウェブサイト、ウェブで入手可能な図書館発行文書、事例報告文書、学部学生用図書館に関する文献を利用した。調査は、2009年5月から12月の期間と2010年8月・9月に行った。

2.2 調査対象の選定

調査対象は、活動中の学部学生用図書館とした。まず、大学研究図書館協会 (ACRL) の Undergraduate Librarians Discussion Group のウェブサイトに掲載されている学部学生用図書館リスト³⁾を参照し、リストに掲載されてい

るもののうち、ウェブサイトでその図書館の名前が確認できること、学部学生・学部教育を主な対象とするサービスを行っていることが確認できた場合、活動中の学部学生用図書館であると判断した。次に、リストには掲載されていないが文献・インターネットなどから存在を確認できた学部学生用図書館についても、活動中であるか確認をした。

その結果、2009年に活動中であると確認できた学部学生用図書館を設置しているのは23大学であった。本研究ではこの23大学を調査対象とした。ただし、2010年8月時点で改組を確認した大学が2大学存在する (第1表)。

なお、本研究では学部学生用図書館という存在を広くとらえるために、独立した建物を持っておらず、中央館などの一画にある図書館、学部学生向けサービスを行う部署なども学部学生用図書館とみなしている。

2.3 調査対象の特徴

2005年版の「カーネギー分類」⁴⁾によると、本研究で調査対象とした23大学全てが「研究大学」と分類されている。また、23大学のうち22大学が、研究図書館協会 (ARL) の会員である⁵⁾。既往文献¹⁾で指摘されるように、学部学生用図書館を設置する大学は研究志向の強い大学であるといえる。そして、学部教育に関しては、「カーネギー分類」⁴⁾によると、リベラルアーツ分野の専攻がそれなりの数を占めかつ選抜レベルの高い大学であると特徴づけられる。

3. サービスの類型

調査結果をもとに、学部学生用図書館におけるサービスを内容の面から類型化した。第1表において、2009年5月から12月の期間における、類型別にみた各大学でのサービスの実施状況をまとめている。なお、以下において具体例としてあげている事例は、2010年9月時点での実施を確認している。

① テクノロジーの導入

1990年代以降になると、コンピュータ、ネットワーク環境の整備といった図書館スペースへ

のテクノロジーの導入が進んだ。また、ノートパソコンやデジタルメディア機器の貸出も行われるようになった。近年では、双方向的なやりとり、協働的な作業が行える機器やアプリケーションが、図書館内の教室やグループ学習室において利用できる大学もある。

テクノロジーの導入はスペースや機器だけではない。レファレンスやインストラクションといったサービス、資料やリザーブ資料の電子的な提供も行われている。

② 様々な学習形態にあわせた学習スペースの整備

個人学習、グループ学習、プレゼンテーション練習、デジタルメディア機器を利用したコンテンツ作成など、様々な学習形態に対応するために、多様な学習スペースの提供が行われている。また、グループ学習室などにおいて、用途にあわせて机や椅子、ホワイトボードといった設備の配置が簡単に変更できる設計も良く見られるようになってきている。

上記のような学習スペースの整備における潮流を先導する例としては、1994年に建設された南カリフォルニア大学の **Leavey Library** とそこに設置されたインフォメーション・コモンスがあげられる。

③ 学習相談の場の設置

学習相談の場も学部学生用図書館の機能となっている。サービスデスクでは、レポートや研究プロジェクトに取り組んでいる学生に対して一対一の図書館員や学生によるサポートが提供されている。たとえば、パデュー大学の **John W. Hicks Undergraduate Library** には、図書館員による学部学生を対象とした「**Research Project Advisory Service**」⁷がある。

以上のような図書館内における対面での相談受付だけでなく、学部学生に対して担当図書館員をつけ、その図書館員がインターネットやメールでの相談窓口・情報発信も行う制度を設けている大学もある。たとえば、シカゴ大学では学年ごとに担当図書館員を配置する「**Class Librarians**」⁸制度がある（様々な図書館の図書館員が参加しており、図書館システム全体の取り組みとして行われている）。

④ 学部教育課程への支援・関与

学部教育課程に対する支援には様々なものが含まれる。

学部学生用図書館のコレクションは、学部教育課程を支援するためのものが中心である。支援の対象として、リベラルアーツ専攻分野、一般教育があげられていることが多い。リザーブ資料に関しても、それらの授業のものを所蔵していることが多い。

学部教育での情報リテラシーの重要性の増大にあわせて、授業内外において対面・オンライン上の情報リテラシー習得を支援するサービスも行われている。学部学生用図書館では、コレクションと同様にリベラルアーツ専攻分野、一般教育に関わるインストラクションを行うとともに、入門的な情報リテラシーに関するインストラクションを担当していることが多い。

さらに、学部教育に対してより深い関与がみられる大学もある。ワシントン大学では、**Odegaard Undergraduate Library** が研究への入門に関する授業⁹の開催場所となっており、**Odegaard Undergraduate Library** の責任者が進行役としても関わっている。また、教員に対して授業や課題の設計に関するコンサルタントを提供する大学もある。たとえば、イェール大学の **Bass Library** では図書館を含む様々な部署の協力による **Collaborative Learning Center**¹⁰が多様なサービスを展開しており、そのなかに教育でのテクノロジー活用に関するレクチャーの開催、講義・課題・教授法に関する教員に対するコンサルタントも含まれている。

⑤ 教育課程外活動への支援・関与

学生は教育課程内での活動以外にも、学内で様々な活動を行っており、そのなかで学習している。学部学生用図書館では、これらを支援することも行われている。

具体的には、社会的・文化的事柄、読書、キャリアなどに関する支援がみられる。学部学生用図書館に展示やパフォーマンスが行えるスペースを設けて芸術鑑賞のイベントを行う大学、図書館による学生の図書コレクションを表彰する制度や新入生全員が同じ図書を読む取り組みに対して学部学生用図書館の関わりが見られる大学、学部学生用図書館においてキャリアに関する資料の提供やキャリア支援部署の相談窓口

第1表 類型別にみた各大学でのサービスの実施状況（2009年時点）

大学名	図書館名/部門名	サービスの類型 1,2					
		①	②	③	④	⑤	⑥
アリゾナ大学 ³	Undergraduate Services Team	○	○	○	○	-	-
イエール大学	Bass Library	○	○	○	○	-	-
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	Undergraduate Library	○	○	○	○	○	-
インディアナ大学ブルーミントン校	Information Commons / Undergraduate Services	○	○	○	○	○	-
ヴァージニア大学	Clemons Library	○	○	○	○	○	-
ウィスコンシン大学マディソン校	Helen C. White College Library	○	○	○	○	○	○
ウェイン州立大学	David Adamany Undergraduate Library	○	○	○	○	○	-
カリフォルニア大学サンディエゴ校	Center for Library and Instructional Computing Services	○	○	○	○	●	●
カリフォルニア大学バークレー校	Moffitt Library	○	○	○	○	○	●
カリフォルニア大学ロサンゼルス校	College Library	○	○	○	○	○	●
コーネル大学	Uris Library	○	○	○	○	●	-
コロンビア大学	Philip L. Milstein Family College Library	○	○	○	○	-	-
シカゴ大学	Harper Memorial Library Commons	○	○	○	○	-	-
ジョージ・メイソン大学	Johnson Center Library	○	○	○	○	-	-
ニューヨーク州立大学バッファロー校 ³	Oscar A. Silverman Undergraduate Library	○	○	○	○	-	●
ノースウェスタン大学	Core Collection, Core	○	○	○	○	-	-
ノースカロライナ大学チャペル・ヒル校	R. B. House Undergraduate Library	○	○	○	○	-	-
ハーバード大学	Lamont Library	○	○	○	○	○	○
パデュー大学	John W. Hicks Undergraduate Library	○	○	○	○	○	-
ハワード大学	Undergraduate Library	○	○	○	○	○	-
ミシガン大学	Shapiro Undergraduate Library	○	○	○	○	○	-
南カリフォルニア大学	Thomas and Dorothy Leavey Library	○	○	○	○	-	-
ワシントン大学	Odegaard Undergraduate Library	○	○	○	○	○	○

注1 サービスの類型は以下の通りである。なお、各類型のサービスの詳細は3. で述べている。

①テクノロジーの導入、②様々な学習形態にあわせた学習スペースの整備、③学習相談の場の設置、④学部教育課程への支援・関与、⑤教育課程外活動への支援・関与、⑥学生の学習成果への支援・関与

注2 学部学生用図書館による実施、あるいは関与が強いと判断した場合に「○」、図書館システムによる実施と判断した場合に「●」、実施が確認できなかった場合に「-」を記入している。各類型に含まれるサービスを複数実施している大学では、学部学生用図書館による実施、あるいは関与が強いサービスが、図書館システムによるサービスよりも多いと判断した場合は「○」を記入している。

注3 アリゾナ大学 Undergraduate Services Team は Instructional Services Team、ニューヨーク州立大学バッファロー校 Oscar A. Silverman Undergraduate Library は Oscar A. Silverman Library に改組されている（2010年8月確認）。

の設置を行う大学などがある。

⑥ 学生の学習成果への支援・関与

学部学生の学習成果の表彰や成果物の展示といった、学習の学習成果に対する取り組みも行われている。

たとえば、カリフォルニア大学バークレー校が嚆矢である¹¹⁾、図書館の資料や資源を利用した学部学生の研究プロジェクトを表彰する制度は、他の大学でも行われるようになっていく。カリフォルニア大学バークレー校の事例は図書館システム全体としての取り組みであるといえるが、学部学生用図書館の関わりが強くみられる大学もある。ウィスコンシン大学マディソン校ではHelen C. White College Libraryの開催となっている(学部学生の学習成果の発表イベントの一環として行われている)¹²⁾。

4. サービスの特徴と傾向

学部学生用図書館では、学習環境の提供、人的な支援、様々な行事の開催などの多様な学習支援のためのサービスが展開されている。それらのサービスはリアル環境とバーチャル環境の双方で提供され、サービス実施の際には教員・他部署との協力もみられる。

全ての調査対象大学において、学部学生用図書館は①から④の類型に含まれるサービスを行っており、これらのサービスは学部学生用図書館において定着しているといえる。一方、⑤・⑥に含まれるサービスは、全ての大学で行われているわけではなく、実施の確認できた大学でも学部学生用図書館による場合、図書館システムによる場合があった(第1表)。学部学生用図書館を設置する大学であっても、どのような形で実施するかは様々であるといえる。しかし、どのような形であれ、広まっていく可能性があるサービスと考えられるため、今後の動向を注目すべきである。

5. サービスの背景

各大学の事例報告や文献などでは、現在の学部学生用図書館で行われているサービスの背景として、(1)テクノロジーの発展と利用の広まり(特に1990年代開始の事例や建物のリノベーションの際に顕著な影響がみられる)、(2)学部教育の変化(参加型の学習や協働的な学習を重視するといった変化への対応が行われている)、

(3)学生の気質の変化(バーチャル環境やグループ作業を好む傾向への対応が行われている)が指摘されている。

6. 結論

学部学生用図書館は学部学生・学部教育に対して、時代の変化のあわせた多面的なサービスを行っていることが分かった。本研究の結果より、現在の学部学生用図書館は、研究大学の図書館において、学習・教育の拠点として機能していると結論づけることができる。

【注・引用文献】

- 1) Person, Roland Conrad. A New Path: Undergraduate Libraries at United States and Canadian Universities, 1949-1987. New York, Greenwood press, 1988, 160 p.
- 2) Lucas, Kari. The undergraduate library and its librarians in the large research university: Responding to change to remain vital and relevant. *Advances in Librarianship*. 2006, vol.30, p.299-323.
- 3) 日本では、Undergraduate Library に対して「学習図書館」、「学部図書館」といった訳語が用いられる場合があるが、本研究では「学部学生用図書館」を使用している。
- 4) Undergraduate Librarians Discussions Group. "Undergraduate Library Directory". <http://www.lib.unc.edu/ugli/directory.html>, (accessed 2010-9-5).
- 5) The Carnegie Classification. <http://classifications.carnegiefoundation.org/>, (accessed 2010-9-5).
- 6) Association of Research Libraries. "Member Libraries". <http://www.arl.org/arl/membership/members.shtml>, (accessed 2010-9-5).
- 7) Purdue University Libraries. "One-on-One Research". Hicks Undergraduate Library. <http://www.lib.purdue.edu/hsse/infopages/rpas.html>, (accessed 2010-9-5).
- 8) University of Chicago Library. "Class Librarians". <http://guides.lib.uchicago.edu/classlibrarians>, (accessed 2010-9-5).
- 9) University of Washington. "Research Exposed". Undergraduate Research Program. <http://www.washington.edu/research/urp/courses/researchexposed/index.html>, (accessed 2010-9-5).
- 10) Yale University. Collaborative Learning Center. <http://clc.yale.edu/index.php>, (accessed 2010-9-5).
- 11) Jones, Lynn. The rewards of research: Library prizes for undergraduate research. *College & Research Libraries News*. 2009, vol.70, no. 6, p.338-341.
- 12) University of Wisconsin-Madison Libraries. "Undergraduate Research Awards". College Library. <http://www.college.library.wisc.edu/resources/researchaward/>, (accessed 2010-9-5).